

# 1 自己評価及び外部評価結果

(ユニット名 まいづる)

事業所番号	0670801109		
法人名	株式会社 ケアサービス鳥海		
事業所名	グループホーム まいづる		
所在地	山形県酒田市麓字横道10番地8		
自己評価作成日	平成22年 7月12日	開設年月日	平成18年 2月 1日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所では、家庭的な雰囲気の中で生活できることを目指して頑張っています。人それぞれの喜びや悲しみ、人それぞれの悩みや不安を家族として共感し合えるように、入居者とのふれあいを大切にしております。

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)  
(公表の調査月の関係で、基本情報が公表されていないこともあります。御了承ください。)

基本情報リンク先 <http://www.kaigo-yamagata.info/yamagata/Top.do>

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 エール・フォーユー		
所在地	山形県山形市小白川町二丁目3—31		
訪問調査日	平成22年 8月 6日	評価結果決定日	平成22年 8月25日

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

昨年度の評価を活かし、早速目標達成に向けての話し合いを行ない質向上に取り組まれています。利用者各々に対し職員全員が機能、環境、ケア面よりモニタリングを行ない、日々の生活を安心して暮らせるよう、衣・食・住 全ての関わりで「もし自分だったら・・・」を常に考え「家族」と捉え、「すてきな笑顔を見たい」と利用者の思いに添ったケアを共有しながら、温かく居心地の良い生活支援に努めている事業所です。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらい <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらい <input type="radio"/> 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2. 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3. 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3. たまにある <input type="radio"/> 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに <input type="radio"/> 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている <input type="radio"/> 2. 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3. あまり増えていない <input type="radio"/> 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2. 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2. 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない			

## 山形県地域密着型サービス「1 自己評価及び外部評価(結果)」

※複数ユニットがある場合、外部評価結果は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します。

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>I. 理念に基づく運営</b>						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「心地良い空間に 笑みと安心を！」を基本理念とし掲げている。又、尊厳 安心 快い 自立した生活 安全で健やかな暮らし なじみの暮らし をケア目標とし、当たり前の日常生活が送れるよう援助に当たっている。	事業所独自の理念を作り上げ、「もし自分だったら・・・」を常に念頭におき、「家族」という思いを大切にしながら日々のサービスに努めている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の一斉路肩清掃に、地区の一員として共に参加したり、地区例祭時には毎年の様に奴振りと子供神輿が施設駐車場まで訪れ、利用者や握手したり地域交流の一時となっている。	町内会に加入している。地域や事業所行事の他にボランティアを始めクリスマス時には園児の来所や小学校の月1回アルミ缶収集、地域住民からの野菜の差し入れ等日頃より馴染みの関係が図られている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	小学校の登校隊が、施設脇の歩道を7時30分に登校し「おはよう・行ってらっしゃい・気つけてのー」大きな声掛けしながら毎日楽しみに手を振り見守っている。施設脇の公園に出かけ保育園児と触れ合ったり、散歩の途中で畑仕事の方々に「花、綺麗だのー」と褒め花を頂いたり有りがたいと感じてる。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	他県での火災による死亡事故などを踏まえ、当施設での火災非難訓練状況の報告(問題点や反省点)や、他施設の非難の訓練の状況やスプリンクラーの設置状況の情報等提供していただき、随時参考にしています。	会議は定期的に行なわれている。異動等により顔ぶれが交代になることもあるが、事業所や地域の情報等を互いに交換し合い双方向的な会議に取り組み、質向上に繋げている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市役所からの紹介で入所している方の状況を、時折TEL等で確認したり、介護度区分変更申請書を提出した際も状況確認のTELをくれ助言や指導を頂いたり、新規ケアプラン作成時、参考のため主治医意見書について確認したり、親切に指導していただいています。	市の担当者とは運営推進会議や書類等の提出時等に意見や指導を受けたり、情報交換を行ない連携を図っている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる	行動が共に出来、確実に安全確保が得られる場合は、玄関を開放しコミュニケーション図っています。又、主治医と相談しながら回避困難な場合のケースについては、家族より同意書を確認していただき、説明の基に実施しています。	安全を確保しながら、一人ひとりの生活リズムに添い、職員は状況や場面等の症例を通し研修を行ない、緊急時ややむを得ない場合以外は身体拘束をしないケアの実践に意識を深め努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	酒田市高齢者虐待対応マニュアルを職員に説明しており、誰でも閲覧できるようにしています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	活用する事例が無いまま経過しており、機会があれば研修などに参加し活用出来るよう今後努めたいと思っています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	これまで同様、理解と同意が得られるよう、説明には十分努力しています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時は常に家族の方とのコミュニケーションに努め、気軽に何でも相談できる雰囲気を中心とし、困っている事や疑問に思うことがあれば直ぐに対応する様努めている。又、利用者については酒田市より毎月介護相談員が訪れ、利用者の声を直に聞き入れ不具合な事が無いか確認行なっています。	家族等の来訪時には安心して話しが出来るよう関係や環境づくりに留意している。家族等には月1回「生活の様子」を送り、家族会代表は運営推進会議のメンバーでもあり、意見・要望等は職員間で情報の共有を図り、日々のサービスに活かしている。	
11		○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	昨年までは全体会議を定期的に行なっていたが、建設的な意見交換が思うように出来ず、今後の大きな課題となっている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めているが、詳細な評価基準がないため、労使双方に評価に対する見解の相違が生じてるように感じられる。介護職員処遇改善交付金におけるキャリアパス要件を整備していく予定である。		
13	(7)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会を確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	庄内ブロックの研修やGH協会の研修など、可能な限り出席してもらっている。又毎月、会議の中でも少しずつ利用者の状態に沿って研修を行い、レベル向上に努めている。	月1回の会議時等には利用者の状況場面に合わせた課題をテーマに勉強会を行ない、職員一人ひとりのアイデア等を引き出しながら、チームで支え育ち合えるようスキルアップに取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(8)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	グループホーム庄内ブロックにおける研修会等に参加し、施設で使えるような内容は即取り入れたり、他施設の情報等を集めたり、施設サービスの向上を常に心掛けている。	地区のグループホーム協議会の研修会や勉強会を通し交流を図っている。資格取得の実技研修を法人全体で取り組み、協働しつつ互いに質向上を目指している。	
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の生活暦を把握した上で、信頼関係が早期に築けるよう意思疎通とコミュニケーションに心がけ対応に当たっている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用者本人が今後施設入居し生活して行く上で、安心・快く・尊厳・健やかな暮らし・自立した生活・なじみの暮らしとなれるよう、家族と施設で共に情報を共有し、本人をサポートしながら支え、不安を少しでも与えぬよう心掛け、早期に安心できるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前面接や生活暦等から確実な援助内容を計画し、入所時本人及び家族に開示し了解を得てもらうなどの対応に当たっている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩として敬い、日常生活を共にしながら様々な人生経験をヒントに職員も支えられている、という意識を持って接するよう努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ケアプランの事例の中にもあるように、家族との絆を維持し自宅のことを忘れないためにも、家族と施設が共に情報を共有し合い外出等出来るよう本人を支えている。		
20		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入所以前に面倒見ていた猫を心配しており、家族の協力を得て時々昼食を兼ね自宅に戻り、安心して帰宅している様子あり。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員は常に中立公平な立場を基本とし、一つ家に暮らす家族として状態把握に努めながら、お互いに命を大切にし支え合えるよう心掛けている。			
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	家族と会った際は、必ず「変わりなく元気にしていますか？」など近況を伺い、特別養護老人ホームに入居した場合等も、他入居者とドライブを兼ね面会に行ったりしている。			
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	なるべく本人の意向に沿い、自立した生活が継続できる様意思疎通に努め、入所前の状況を取り入れベットのサイドに夜間のみポータブルトイレを設置したり本人の機能維持にも努めている。	生活歴より「相手をよく知ることを意識し、職員は生活を支えることを共有しながら「もし自分だったら・・・」の視点に立ちコミュニケーションを大事にしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人はもとより、家族とのコミュニケーションに努め、これまでの暮らしの状態を聞き入れ、出来る限り不安感や不自由な思いを最小限度に止められる様心掛けている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人その人らしさを把握しており、普段と違う状況や行動等見られた場合、職員間で情報を共有し何かのシグナルを発していないか随時観察強化を行い、早めの対応を心掛けている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	課題について定期的にモニタリングを行い、随時新たな課題が他に発生していないか、職員一人づつ意見交換をしている。又、職員の気づきでよい案があれば即実行し、不具合があればその日のチームで再検討し対応に当たっている。	受け持ち担当制にし、BPSD等の定期的な経過の報告やモニタリング時の職員一人ひとりの気づきや情報、意識付けを大切にし、介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録は、介護経過と生活記録に分けており、介護計画や日常生活の状況または特記事項等、一目で把握できるよう記録しており、問題が発生した場合は個人記録に対応策など実践状況を記録し理解してもらえるよう努めている。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 (小規模多機能型居宅介護事業所のみ記載) 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる				
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	食材の買出しに共に出かけ、カートを押してもらいながら「今日も来たの！雨ふられなかった？」等スーパーの職員に声掛けしてもらい、日常会話を楽しむことができる。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期受診や緊急時の受診介助を行い、経過報告と状況説明を行い健康管理に努めている。又、受診時に説明等受けた場合は、必要に応じ家族に健康状態を報告説明行なっている。	利用者・家族等の希望とするかかりつけ医で受診し、職員が通院介助を行っている。受診結果や状態変化時等は電話で連絡を取り合い、医療機関等との連携や職員間の共有を重視しながら支援に努めている。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護資格を有する職員が従事している。又、同敷地内の他の事業所にも看護資格を有する職員が従事しており、日常の健康管理はもとより、緊急時や急変時など咄嗟の対応が可能である。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。	入院となった場合は、病状に係わる経過の情報提供書を作成添付し、入院計画書に基づき面会しながら担当ナースより経過を確認したり、退院後に向け状況把握に努めている。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる	施設も開設以来4年経過、入居者も重度化しており入退院を繰り返すたびADL低下を来している。Drから家族と一緒に説明など受けた際、施設として提供できる範囲を提示し、医療機関や家族にも了解得ながら対応に当たっている。	重度化した場合の対応や看取りに関する確認書は設けてないが、利用者・家族等には入所時に説明し相談しながら支援を行っている。経口摂取が出来なくなった時点を目安に医療関係者等との連携を図り、関わりの中で情報、対応方針等を共有しながらチームで支援に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成し周知徹底を図っている。対応困難時は、電話連絡にて指示を仰いだり、応援要請にて対応に当たっている。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難場所は一応施設駐車場となっているが、災害の状況により施設裏手にある地区避難場所の指定となっている公園があり、その向かい側には地区自治会館もあり災害時には避難場所として区長を介し許可を得ている。	5月に予告無しの夜間時の通報訓練を実施している。昨年の課題でもあった備蓄について、早速検討し食料、飲料水等の必要物資を調達している。現在、消防署、地域消防団への協力依頼をし、総合訓練実施に向け計画中である。	事業所の災害対策に関する理解を尚一層深め、関係機関や地域住民等との参加協力を働きかける等、あらゆる場面を想定し出来るだけ多くの訓練を実施されることをさらに期待したい。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	集団生活において、食事・排泄・入浴・睡眠などは譲れない面があるものの、個々の人格や思いを尊重し、皆が気分悪い思いをしないよう、入居者を味方に付け対応に当たっている。	日常の関わりの中で「もし自分だったら・・・」という気持ちを常に考え、困難な場合等周りの利用者からも協力を得、言葉かけ等に配慮しながらさりげないケアに努めている。「個人情報保護法」についても事業所全体で話し合い研修に努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員も利用者も同じ空間の中で過ごしている内、どちらもストレスとなることがある。「外の花みにいくか？」等気分転換できる様心掛けたり、選択肢を投げかけ自己決定できるように支援したり、お互いに時には甘えられる雰囲気を作ったり援助している。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	「ご飯、いらね!」「馬鹿くさい!」などその日の気分で朝食が10時頃になったり、可能な範囲でなるべく本人の意向に沿って対応に当たっている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入所以前になじみの美容室で白髪染めをしていたらしく、入所してからも本人が染めたいとの希望あり、予約等の援助行っている。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日、食材の下ごしらえ(野菜)と一緒に手伝ってもらい、たとえば人参はどうやって食べたい? どんな料理が美味しいかな? など思いを膨らませ会話を楽しんでいる。	朝夕は法人内で調理されたものを食し、昼食のみ利用者の希望を聞きながら買い物や調理の一連作業等の出来ることを職員と一緒にやっている。炊き立てのご飯の香りや出来立ての味等五感を楽しみ、利用者職員は共にテーブルを囲み和みながら食事をしている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量や水分補給は毎回チェックしており、それぞれの摂取量や嗜好に合わせ随時コミュニケーション図りながら提供している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケア行っており、個人の能力に応じ出来ない部分は介助を行い、舌苔が付かないようブラッシング指導しながら確認行っている。			
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	頻尿だとのことで入所時にトイレ脇の部屋を使用してもらいズボンの上げ下げの介助を行っていたが、杖歩行で夜間起きてくるのが大変なこともあり、本人と相談行いポータブルトイレを夜間のみベットサイドに設置し、本人も安心した様子あり、それぞれのレベルに応じ機能維持心掛け対応に当たっている。	排泄チェック表でパターンを把握し、一人ひとりの身体状況に合わせた見守りを重視している。誘導の際は小声で話しかけ、拒む場合は時間をずらしながら促し、夜間時はベットサイドにポータブルトイレを置く等トイレでの排泄を大切にしている。職員は申し送り時等に共有を図っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェック表を用い、定期的に排便コントロールを行い快適な生活となるよう援助行っている。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	体調によっては本人の了解をえながら入浴日を変更したり、常に体幹清潔保持に努めている。	利用者の希望や習慣に合わせた柔軟な入浴支援を行い個浴が殆んどである。拒む人には無理強いせず時間をずらし声掛けや誘導を促し、色や香りを楽しむ入浴剤を使用し、くつろいだ気分で入浴できる工夫を取り入れ支援に努めている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの要望や状態に応じ、照明の調節や空調管理を行い、好みの環境整備心掛け安眠休息を支援している。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の疾病状況や服薬情報を個人ファイルに表示しており、Dr指示にて変更や調節等があった場合は、職員連絡事項に記載し経過観察と状況把握に努めている。			



自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	可能な範囲で利用者と共に施設周囲の草取りや畑や花壇の水掛等行い気分転換に努めている。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	職員の昼休みを利用し、入居者と一緒に裏手の山にある神社に散歩に行ったり、入院中の利用者を見舞いに行ったり、天気の良い日は外で下肢筋力トレーニング兼ねたサッカー(椅子に座り)したり、なるべくストレスとならないよう外に連れ出すよう心掛けている。	歩行困難の方も車椅子等を利用し全員で近くの公園や山の神社に散歩している。畑の収穫や敷地内にテーブルを運びお茶を楽しんだり利用者の入退院時等は車で見舞いや迎えに行くなど、可能な限り体調を考慮し外出支援を図っている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は、職員が預かり小遣い帳に記載し、家族が来た時に再確認してもらっているが、インコを飼っている利用者があり、餌が無くなるなどのことで一緒に買いに行く等支援している。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家に電話したいとの訴えあった場合は、「そこに電話あるから掛けていいよ」と一緒に掛けたり、「娘さ、電話してっける 今度いつ来んなだか？」との訴えを家族に伝えてあげたりしている。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じ、共用の空間には職員が持ち寄り季節ごとの生花が生けられたり、職員の家族が作った粘土フラワーを毎月交換し飾ったり、利用者と共に作ったひまわりやアサガオ(おりがみ)などを飾り、季節感を取り入れるよう工夫している。又、ペットボトルを利用した観葉植物は利用者の方が毎日水を変えてくれ、すくすく成長する様子を皆で眺めている。	ホールからは緑豊かな山や畑が望め、天窗は明るく陽光が入り、廊下には四季の花を生け、職員と共に折ったアサガオ等の花を飾り、リビングには魚のモビールが吊るされ目を楽しませてくれる共用空間となっている。、トイレ・浴室には手摺りや滑り止めマット等安全性にも留意し配慮している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関より外が見られるよう椅子を設置し、よく外を眺めている様子が見られる。又、共用スペースが狭いため、入居者の皆さんも気の合った利用者同士で他入居者の部屋を訪ね昔の仕事の話をしたり、それぞれ笑いながら日々過ごしている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個々の移動能力に応じ、居室を配置しなるべく機能維持を心掛けている。又、それぞれ家族の協力を得て使い慣れたなじみのもの等持参してもらい、安心して穏やかに過ごせる様本人の意向を踏まえながら対応に当たっている。	入り口には一人ひとりの目線にあわせた大きな文字でネームを掲げ、災害時等、在室確認の為の“手作りの花”をドアの上に貼り人員点呼の確認方法に役立てている。本人の意向を確認しながら自宅での生活と変わらない環境作りをし、安心して居心地良く過ごせるよう支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	食堂の椅子に名前を貼り、自分の場所がわかる様にしてしている。又、居室の場所がわからなくなる利用者については居室前に名前を貼り出し見て思い出せるよう工夫している。		